佐賀県高等学校
ＰＴＡ新聞

発行　佐賀県高等学校ＰＴＡ連合会
佐賀市成章町７－29
電　話　0952(29)2573
ＦＡＸ　0952(26)5435
印刷　大同印刷株式会社

全高Ｐ連佐賀大会の開催が決定

会長　伊東猛彦

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、決意も新たに新春をお迎えのこととお慶び申しあげます。

さて、昨年1年を振り返ると我が国日本においても、世界においても実に様々な出来事がありました。世界中が改めてテロの脅威を感じ、先の不安を感じた方も多かったのではないでしょうか。

そんな中飛び込んでくる明るいニュースは、私たちに生きる希望と勇気を与えてくれます。昨年12月、金星探査機「あかつき」の金星周回軌道投入の成功は見るものに感動を与えてくれました。２０１０年にも試みましたが、主エンジンの故障で失敗。設計寿命の４年半を超えて太陽の周囲を飛んでいました。その間中村正人教授をはじめ宇宙航空研究開発機構の皆さんは、大変な苦悩の中諦めない努力を続けられました。そして２０１５年12月7日、姿勢制御用エンジン噴射による金星周回軌道への投入を行い成功しました。軌道の計算を手掛けられた主任研究員である広瀬史子さんの、記者会見での満面の笑みに、明日への希望と生きる活力を与えてもらったと感じたものでした。

今年は、高Ｐ連においても明るいニュースの多い年にしたいと思います。私は昨年の佐高Ｐ連の総会において、会長就任の挨拶として「ＰＴＡと子どもたちの心を繋ぎ、子どもたちの夢実現に向けて高Ｐ連をより一層活性化させたい」と宣言しました。同じく昨年6月の全国高Ｐ連総会では、平成30年に、我が佐賀県に於いて、全国高等学校ＰＴＡ連合会大会「佐賀大会」が開催されることが正式決定いたしました。県内各校の生徒の皆さん、保護者の皆さんと共に、教育県佐賀をアピールし、高校生の個の力を集約した素晴らしい大会にしたいと今から楽しみにしています。佐賀県が全国に先駆けて取り組んできた「ＩＣＴ教育」と、今年の参議院選挙でいよいよはじまる「18歳参政権」についても新たに特別分科会を開設する予定です。

準備も加速的にはじまって参ります。会員の皆さまのご支援とご協力を心からお願いし、本年もどうぞよろしくお願い致します。

三神地区

当番校　東明館高校

11月27日（金）、三神地区指導者研修会が基山町の町民会館で開催されました。来賓には佐賀県高等学校ＰＴＡ連合会事務局長の久保隆慶様をお迎えし、三神地区の各高等学校の保護者・関係職員44名が出席されました。

三神地区連絡協議会の岩本後援会会長より挨拶があり、事務局校より中村副校長の挨拶、来賓の久保隆慶事務局長の挨拶がありました。その後、西九州大学非常勤講師、臨床心理士の吉村春生先生の講演が行われました。

「心がかぜをひくとき」―〝安心感〟と自立―という演題のもと、思考・感情・行動の三つの要素で構成される「心のメカニズム」についてお話しされました。「安心感」が心のエネルギーになることや、思春期、青年期の子どもたちの「安心感」と自立や行動との関連性について、わかりやすくお話しされ、家庭や学校などの身近な場面に置き換えて色々なことを考えるきっかけをいただきました。

続いて、全高Ｐ連岩手大会の報告を三養基高校ＰＴＡの江原副会長に、九高Ｐ連長崎大会の報告を東明館高校後援会の西書記・会計にしていただきました。

その後、事例発表として、東明館高校後援会の長家広報委員長が東明館高校の後援会活動について発表されました。

様々な活動の報告や事例発表を通して、ＰＴＡ活動と学校との連携について再認識することができた研修会でした。

《久保山真美子》

佐城地区

当番校　佐賀東高校

10月28日（水）、佐城地区の各区からの保護者・関係職員約150名の参加のもと、平成27年度佐城地区指導者研修会がアバンセホールにて開催されました。来賓には学校教育課係長の中山浩政様、佐賀県高等学校ＰＴＡ連合会会長の伊東猛彦様をお迎えしました。

開会行事では、当番校（佐賀東高等学校）の川崎賢朗後援会会長が挨拶をされ、佐高Ｐ連の関係各位のご尽力に対して深い敬意と感謝の意を述べられました。続けて佐高Ｐ連会長の伊東様が挨拶をされました。

その後、「心をはぐくむ…勇気と想像力を」と題して、佐賀新聞社常務取締編集主幹富吉賢太郎先生の記念講演が行われました。

講演では、「心を育む勇気と想像力」の大切さを先生の体験や佐賀新聞社への投稿、便りから教えていただきました。「勇気とは今言わなければならないことを言うこと、しなければならないことをすること。想像力とは、思いやりと優しさである。想像力があれば、人を思いやることができる。寄り添うことができる」とチャーリー・チャップリンの言葉を引用され、いじめや差別で悲しみ、苦しんでいらっしゃる方々の話を中心に講演をされました。また、薬物依存の恐ろしさや女子少年更生施設の話を通して、食育や規則正しい生活を送ることの大切さを改めて考えさせられました。講演時間の1時間30分が本当にあっという間に過ぎ、質疑応答まで含め、具体的で説得力のある富吉先生のお話は、役員や保護者のみならず教職につく方々へも多いに参考となるものでした。研修会の目的である「青少年の健全育成とＰＴＡ指導者の資質の向上を図る」ことがしっかりできた研修会となりました。

《藤光　禎史》

地区別指導者研修会報告（裏面に続く）

佐賀県教育委員会表彰
小出邦彦前会長が受賞

平成27年11月2日（月）、佐賀県教育委員会表彰式が佐賀県庁で行われました。この表彰式では生涯学習や芸術文化に功績があった36人3団体が受賞されましたが、その中に本県高等学校ＰＴＡ連合会前会長の小出邦彦氏が選ばれました。

小出前会長は、多年にわたり卓越した識見と指導力をもってＰＴＡ活動に尽力されたことや、本県高等学校ＰＴＡ連合会会長等として青少年の健全育成に寄与された功績が評価されての受賞でした。

これからは県連顧問として、本県高等学校ＰＴＡ連合会の発展にお力添えをお願いいたします。おめでとうございました。

お知らせ

来年度の佐高Ｐ連「会費」と全高Ｐ連賠償責任補償制度の「掛金」は、今年度と同額です。

○佐高Ｐ連事務担当者会議
4月27日（水）14時～
「グランデはがくれ」

○佐高Ｐ連定期総会
6月10日（金）14時～
「グランデはがくれ」

○九高Ｐ連大会
「おんせん県おおいた大会」
6月16日（木）・17日（金）
「ビーコンプラザ」

○全高Ｐ連大会岩手大会
8月24日（水）～26日（金）
「幕張イベントホール」ほか

春秋

スマホ考

◆昨春、県下では初の試みということでしたが、武雄市立小中学校で育友会・ＰＴＡが中心となり、小中学生に携帯電話やスマートフォンを持たせないとの申し合わせが行われました。

◆いわゆる「スマホ依存」が問題となり、「ＬＩＮＥ」などを使ったいじめや事件が全国で後を絶たない中、拘束力はないものの、持たせた場合は保護者の責任とし、「家庭でルールを決めるなど情報モラルを親子で高め合う」効果と、事件事故の抑止効果が期待されてのことです。

◆一方、高校生のスマホ所持率は85％を超え、毎日3～4時間利用している生徒はザラにいるとの調査結果もあります。高校生が事件に巻き込まれるケースも増えているのが現状です。

◆こうした中、県下の高校でもＰＴＡが主体となり、家庭でのスマホ利用等のルールづくりに向けた動きが始まっています。

◆ＩＣＴ利活用教育推進のもと、県立学校生徒への学習用ＰＣの導入に伴い、昨年度から多くの高校では携帯電話の「実質的な持ち込み」を認めたばかりであり、スマホ等の利用にはより厳しい自己管理が求められています。

◆折しも、「持ち込み禁止は学力格差を縮めるのに有効」と、ロンドン大の研究チームが結論付けた記事が目に止まりました。あるグループは、持ち込み禁止により、授業を毎週1時間余分に受けた効果に相当する成績の伸びが見られたということです。

◆ルールづくりにとって追い風となるかどうか、今後も見守っていこうと思っています。

武雄高等学校
校長　松本　裕史

シリーズ No.22

頑張ってるね!! 輝いてるね!!

眼張って、顔晴れるように、頑張ってます！

佐賀県立杵島商業高等学校

まず、佐賀県内の高校で部活動としては、2校（杵島商業・高志館）しかないボクシング部の様子を紹介します。現在、1年生男子2名・1年生女子1名で活動しています。ボクシングの練習場といえば、リングや鏡、たくさんぶら下がったサンドバッグ、などを想像しそうですが、本校ではリングや鏡はなくサンドバッグも1本だけで、

クラス減によって発生した空き教室で、日々、クラシカルでアナログチックな練習を地道に励んでいます。

主な実績は平成23・24年度に全国高校総体へ出場（男子1名）し、今年度は、鳥栖市の田代中学校3年生時に全国優勝を果たした、成富丈一郎君（写真左）が1年生ながら6月の県高校総体で優勝し、九州・全国・九州ブロック国体等に佐賀県代表で出場し頑張ってくれました。

次に、ブラスバンド部を紹介します。歴史は浅く、平成14年に創立50周年を記念して創部され、今年で13年目です。顧問の田口みのり先生（英語科）・森田ちづる先生（養護教諭）による日頃の熱心な指導、それに加えて外部講師の江上先生から月2回の指導を受けながら、7月に行われる吹奏楽大会での金賞を目標に、こちらも空き教室で練習に励んでいます。学校内の各種式典での演奏・文化祭でのステージ発表、そして今年度は江北町のビッキー祭りに参加するなどの活動もしました。

田口先生は「部員が30名を超える時期もあったが、現在は7名です」と、部員不足が悩みの種であり、新入部員獲得のため、日々「眼張って、顔晴れるように、頑張ってます！」とのことです。

将来の自分のために

佐賀県立唐津特別支援学校

私たちの学校は、平成13年4月に旧校名佐賀県立北部養護学校として開校しました。

学校教育目標の「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」を身に付けるために頑張っています。

その一つの取り組みに作業学習があり、6つの作業班に分かれています。「農業班」「木工班」「窯業班」「被服班」「紙工班」「手織り班」です。各班ともそれぞれの工程をていねいに仕上げて、より良い物を作る努力をしています。出来上がった製品は「からとく夢いちば」と題して、6月に生徒たちが唐津うまかもん市場で販売し、10月には学校祭「まつら祭」で販売しました。

まつら祭では地域の多くの皆様に来て頂くために、ポスターやチラシを作り配布して、当日は元気な声で製品をアピールすることもできました。「からとく夢いちば」の販売会は、2月にも地域のショッピングセンターで行う予定です。

また、3年生は6月と11月に、1・2年生は11月に2～4週間、企業や福祉作業所等での就業体験があります。社会へ出るための大きな学習です。それぞれの体験先で働く喜びや大切さ、人との関わり方など多くを学び一人ひとりが自分に合う進路へ向かいます。

できることには個人差がありますが、作業学習や就業体験で得たことを生かして、これからも「明るく元気に」「心豊かに」「たくましく」頑張ってくれると思います。

鹿藤地区

当番校　鹿島実業高校

平成27年度鹿藤地区高等学校PTA指導者研修会を、10月10日（土）に、鹿島市の「清川」にて開催しました。今年度は、県高P連より久保隆慶事務局長を来賓としてお迎えし、鹿藤地区の6高校から約70名の参加がありました。

【開会行事】

鹿藤地区事務局の鹿島実業高等学校PTAの藤永一男会長の挨拶のあと、来賓の久保隆慶事務局長よりご挨拶をいただきました。

【各学校PTA活動報告】

クラスマッチ時の炊き出しや文化祭への協力参加、会員同士の親睦や進路認識を深めるためのレクリエーションや企業・学校の視察研修、交通安全指導やあいさつ運動など、学校ごとに特色ある様々な活動の報告がなされました。

【高P連全国・九州大会報告】

全高P連の岩手大会については、太良高校PTAより、九高P連の長崎大会については、鹿島高校PTAより、それぞれ報告がありました。

【講演】「時代を生きるこどもたちに寄り添うために」という演題で、この地区のスクールカウンセラーとして活躍しておられる江崎京子先生にご講演をいただきました。今という時代、親側の問題点として、親自体もスマホに夢中、子どもの教育に過敏に反応しすぎであること等をあげられ、子ども側の問題点としては、LINEやゲームへの依存度の高さ、友人関係での悩みの多さ等をあげられました。そして、子育ての留意点を「親として、子どもの未熟な言動にも耳を傾けること。子どもの自立に向け、子どもの力を信じること。必要な時には、いつでも寄り添い、手を差し伸べること。」とまとめられました。質疑応答では、「発達障害とは何か」「学校へ行けない子どもへの対応は」等の質問も出て、学ぶところの多い一日となりました。

《原　弘樹》

唐松地区

当番校　唐津西高校

平成27年度佐賀県高等学校PTA連合会唐松地区高等学校教育振興会指導者研修会を11月19日（木）に唐津市文化体育館で開催しました。県高P連より久保事務局長をはじめ、唐松地区の7校から48名の参加がありました。

【開会行事】

唐津西高校振興会の前田会長、佐高P連久保事務局長が挨拶をされました。

【高P連全国・九州大会報告】

岩手大会、長崎大会の報告が、唐津西高校、唐津青翔高校からありました。

【PTA活動報告】

唐津南高校から、1年間のPTA活動について、婦人部、生徒指導部、広報部、南高祭と多岐にわたっての報告がありました。

【講演】

講師に(株)リクルートマーケティングパートナーズ進学事業本部の大鶴恵太氏を迎え、「お子様の進路選択について、大事にしていただきたいこと」という演題で、保護者として、教職員として子どもたちの進路選択にどのように向き合っていけばよいのかをわかりやすく講演されました。「進学の〝今〟」では高校1・2年生のうちに取り組んでおきたいこと、「進学に関わるお金について」は進学に関わる費用について、「就職環境と社会で求められる力」では、グローバル化する社会においては、高校時代に勉強や部活動にしっかり取り組むことが将来に役立つ力がつく近道である。「保護者と子どものコミュニケーション」では、高校生の進路選択の悩みをいかに解決すべきか、保護者の家庭内でのコミュニケーションの重要性と、温かい支援が一番のアドバイスとなることなど、すぐに実践できる内容ばかりで、参加者からは「なるほど」、「そうか」と感嘆の声が上がって、大変有意義な研修会となりました。

《松永　弘之》

杵西地区

当番校　杵島商業高校

10月27日（火）、杵西地区高等学校PTA指導者研修会が江北町「ネイブル」にて開催されました。佐賀県高等学校PTA連合会事務局長の久保隆慶様を来賓に迎え、10校から12単P計47名の参加者が出席されました。

杵西地区PTAの田中浩吉会長の挨拶、事務局校長挨拶、来賓の久保事務局長の挨拶の後、学校法人麻生塾・徳久晶子様に「お子様の進路実現に向けて」という演題で、講演をしていただきました。

講演の内容は、これから先の時代に社会から求める人材となり、子ども達が希望する進路実現をするためには「悪戦苦闘能力」を身につけさせる事が大事であり、基本的生活習慣の確立・学校の遅刻欠席は家庭の責任・家庭学習の習慣づけ・自分の将来見据えた進路に敏感になる・頑張っていれば褒める、等の家庭教育の大切さを、徳久先生の滑舌のいいテンポある軽快なおしゃべりで話され、受講者は聞き入っていました。

その後、事例発表として白石高校のPTA活動について、溝口哲也会長が発表されました。学校の概要・PTAの組織の説明から、PTA総会前の講演会や白高祭でのリサイクルバザー・駐車場整理・校内警備、地元や隣県の大学訪問、新しい取り組みとしての茶話会（白薔薇会）などについての説明がありました。続いて、敬徳高校の後援会活動について末永久美子会長から、学校の紹介、後援会総会・挨拶運動・御命日法要の聴講への参加・敬徳祭での後援会バザー・伊万里駅前商店街協力事業としての高校生ショップバザー活動などについて発表がありました。

《森田　隆宏》